

問 11 新会計システムのシステム監査に関する次の記述を読んで、設問 1～6 に答えよ。

U 社は中堅の総合商社であり、12 社の子会社を傘下に置いて事業を運営している。U 社グループでは、経理業務の最適化を進めるために U 社グループの経理業務を集中的に行う経理センタを設立するとともに、グループ共通で利用する新会計システムを 3 か月前に導入した。U 社の内部監査部では、新会計システムに関連する運用状況のシステム監査を実施することにした。

〔予備調査の概要〕

予備調査で入手した情報は次のとおりである。

(1) 経理センタと新会計システムの概要

- ① 経理センタでは、グループ各社の独自の経理マニュアルを利用しており、各社の経理部門の担当者がそのまま各社担当の担当チーム長とそのスタッフとして配置されている。また、現状の経理業務は手作業が多く、多くの派遣社員が担当している。しかしながら、1 年後を目標として、グループ共通の経理マニュアルを策定し、経理業務のタスク別にチームを編成し、経理業務の効率向上を図る予定である。
- ② 新会計システムはパッケージシステムであり、仕訳・決算機能だけでなく、債権・債務管理機能、資金管理機能、経費支払機能が組み込まれている。各社は、仕入・販売・在庫・給与などの独自の業務システムを利用している。これらの業務システムから新会計システムへのインタフェースは、自動インタフェースのほか、業務システムでダウンロードされた CSV ファイルの手作業によるアップロード入力（以下、アップロード入力という）や伝票ごとの手作業入力によって行われている。また、経理業務の効率向上の一環として、自動インタフェースを順次拡大させる計画である。

(2) 新会計システムへの入力

アップロード入力の場合は、各社の担当チームのスタッフが日次又は月次で新会計システムへアップロード入力を実行すると正式な会計データになる。伝票ごとの手作業入力の場合は、入力者が伝票入力を行った後に、担当チーム長などの承認者が伝票承認入力を行うと正式な会計データになる。承認者は、業務量に応

じて複数配置されている。また、新会計システムは、入力者が承認できないように設定されている。

(3) 新会計システムのアクセス管理

新会計システムでは、現状において次のようにアクセス権限を管理している。

- ① アクセス権限は、図 1 のように利用者マスタの利用者 ID に対してロール名を設定することで制御される。ロールマスタでは、ロール名ごとに利用可能な会社、当該会社で利用可能な画面・機能などが設定されている。このロールマスタは、各社の担当チーム長のロールマスタ申請書に基づいて U 社のシステム部で登録される。また、利用者マスタは、利用者が入力した後、利用者マスタ承認権限のある同じチームの担当チーム長が承認入力を行うことで、登録される。

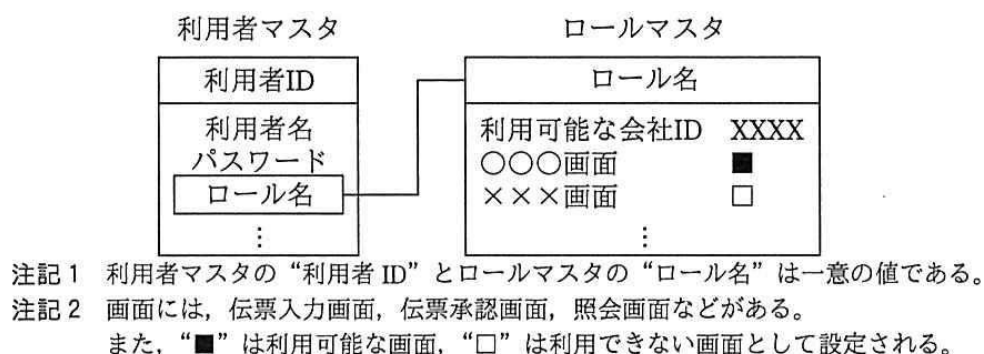


図 1 利用者マスタとロールマスタの関連

- ② 利用者 ID のパスワードは、3 か月に 1 度の変更が自動的に要求される。
- ③ 派遣社員は個人ごとの利用者 ID でなく、同じチームの複数人で一つの利用者 ID を共有している（以下、共有 ID という）。共有 ID のパスワードは、自動的な変更要求の都度、担当チーム長が変更し、各派遣社員に通知している。

(4) その他の事項

その他、新会計システムの機能及び経理業務の手続は、次のとおりである。

- ① 各社は月次決算を行っており、月次決算の完了時には、各社の担当チーム長が月次締め処理を実行する。これによって、当月の会計データの入力はできなくなる。
- ② 経理業務の効率向上に先行して、来月から全ての会社のアップロード入力は、特定の担当者 3 名で集中的に行う予定である。この担当者の作業漏れを防止す

るために、各社の担当者が“CSV アップロード一覧表”を作成している。

〔監査手続の検討〕

予備調査に基づき監査担当者が策定した監査手続案、及び内部監査部長のレビューコメントは、表1のとおりである。

表1 監査手続案及び内部監査部長のレビューコメント

項番	監査手続案	内部監査部長のレビューコメント
(1)	利用者 ID の権限設定の妥当性を確かめるために、利用者マスタを閲覧し、登録されているロール名の妥当性を確かめる。	① 利用者マスタの登録手続のコントロールとして、担当チーム長の利用者 ID だけに <input type="text" value="a"/> が付与されているか確かめる必要がある。 ② 利用者マスタの閲覧だけでは、利用者 ID の権限の妥当性を評価できないので、 <input type="text" value="b"/> の内容についても閲覧する必要がある。
(2)	月次決算完了日後に入力した正式な会計データがないか、月次決算完了日後入力の会計データを抽出する。	① 新会計システムで <input type="text" value="c"/> が月次決算完了日に行われていることを確かめれば、会計データから抽出する手続は不要である。

〔本調査の結果〕

本調査の結果、監査担当者が発見した事項及び改善案は次のとおりである。

- (1) は、各担当チームのスタッフだけで正式な会計データとすることができるので、不正な会計データの入力を防止する観点から改善が必要である。
- (2) 伝票ごとの手作業の入力において、承認者の中に伝票入力権限が付与された者がいたので、入力権限を削除すべきである。
- (3) 共有 ID について、担当チーム長がパスワードを変更すると、 を行うことが可能となるので、改善が必要である。
- (4) 多くの利用者 ID に複数のロール名が登録されていたので、 の観点から、一つの利用者 ID に対して同時に登録できないロール名を明確にすべきである。
- (5) アップロード入力の CSV ファイルは減少する予定なので、“CSV アップロード一覧表”を最新に維持するためには、更新手順を明確にしておく必要がある。

上述の(2)について、内部監査部長は、“当該事項に対応する(ア)新会計システム
に組み込まれたコントロールがある”ので追加確認することを指示した。

設問1 表1中の , 及び に入れる適切な字句をそれぞれ10字以内で答えよ。

設問2 [本調査の結果]の に入れる適切な字句を10字以内で答えよ。

設問3 [本調査の結果]の に入れる適切な字句を15字以内で答えよ。

設問4 [本調査の結果]の に入れる最も適切な字句を解答群の中から選び、記号で答えよ。

解答群

ア 業務の継続性 イ 業務の効率向上 ウ 作業漏れ防止

エ 職務の分離 オ ロールの簡素化

設問5 [本調査の結果]の(5)で、CSV ファイルは減少する予定があるとした理由を20字以内で答えよ。

設問6 [本調査の結果]の下線(ア)のコントロールは何か。10字以内で答えよ。

問 11 システム構築プロジェクトの監査に関する次の記述を読んで、設問 1～6 に答えよ。

クレジットカード会社の U 社では、顧客利便性の向上、コストの削減などを目的として、インターネットを通じて各種情報を顧客に提供するシステムの構築プロジェクト（以下、本プロジェクトという）を推進している。

U 社の内部監査部長は、年度監査計画に基づき、システム監査チームに対して、本プロジェクトの各段階の適切性を監査するよう指示した。

〔要件定義段階の監査で把握した事項〕

システム監査チームは、要件定義段階の監査を X 年 5 月に行い、本プロジェクトに関して、次のことを把握した。

なお、監査の結果、監査報告書に記載すべき重要な指摘事項はなかった。

(1) 要件の区分

要件は、機能要件、セキュリティ要件、運用要件などに区分される。

(2) 機能要件

従来、クレジットカード利用明細などの顧客向けの情報（以下、カード利用情報という）は、基幹系システムで作成して出力し、広告用パンフレットなどとともに、顧客宛に送付していた。本プロジェクトでは、カード利用情報、広告情報などを顧客が Web ブラウザで閲覧できるよう、情報系システムを開発するとともに、基幹系システムを改修する。

(3) セキュリティ要件

情報系システム及び基幹系システムの基本設計で定めるセキュリティ対策は、U 社の情報セキュリティ対策基準に準拠する。

(4) 要件の管理

要件定義段階で未確定の要件（以下、未確定要件という）は、課題管理表に記載し、確定するまで管理する。未確定要件は、基本設計の開始日から 2 か月以内に確定させる予定である。

(5) 本プロジェクトの運営体制

本プロジェクトの重要事項を決定する会議体であるプロジェクト運営委員会は、U 社のシステム部の部長を議長とし、業務管理部、顧客サービス部などユーザ部門

の各部長，及びプロジェクトマネージャの V 氏で構成される。プロジェクト運営委員会は月 1 回の定例開催に加えて，必要に応じて臨時に開催される。

(6) 本プロジェクトに適用されるプロジェクト標準

本プロジェクトには，U 社のプロジェクト標準が適用される。プロジェクト標準の一部を表 1 に示す。

表 1 プロジェクト標準（一部）

項番	項目	内容
1	要件定義	・ 検討した各要件に要件 ID を付与し，要件定義書に記載する。
2	基本設計	・ 基本設計書は，“機能設計”，“セキュリティ設計”，“運用設計”などで構成される。 ・ 検討した各設計内容に設計 ID を付与し，基本設計書に記載する。 ・ 要件 ID と設計 ID を対応付けた表（以下，要件対照表という）を作成し，基本設計書に添付する。
3	進捗管理	・ プロジェクトの各段階のタスクの進捗状況は，タスク管理表に記載し，タスクが完了するまで管理する。

〔基本設計段階の予備調査で把握した事項〕

システム監査チームは，要件定義段階の監査に続いて，基本設計段階の監査を行うこととした。まず，予備調査を X 年 8 月下旬に行い，プロジェクト計画書の確認などによって，次のことを把握した。

- (1) 基本設計は，X 年 7 月 1 日に開始した。
- (2) 基本設計検討会は，V 氏を議長とし，システム部及びユーザ部門の各部を代表する部員で構成される。基本設計検討会の議事録には，開催日時，出席者，検討事項，検討結果などが記載される。
- (3) 機能設計では，Web ページの構成，情報系システムと基幹系システムとのインタフェースなどを検討し，その結果を基本設計書に記載する。予備調査の時点では，機能設計に関する複数のタスクが未完了であった。
- (4) セキュリティ設計では，アクセスの制御，データの暗号化などを検討し，その結果を基本設計書に記載する。
- (5) 要件対照表は，X 年 8 月 31 日までに作成を完了する予定である。
- (6) プロジェクト運営委員会は，プロジェクト標準の内容を充足していることを確

認して、X 年 10 月 31 日に基本設計の終了を承認する予定である。

〔システム監査チームの検討〕

システム監査チームは、基本設計段階の監査について、予備調査の結果を踏まえて、本調査を X 年 9 月 10 日～14 日と計画した。また、監査結果に基づいて基本設計を見直すことができるよう、監査結果報告を X 年 a と計画した。システム監査チームが検討した監査要点及び監査手続の一部を表 2 に示す。

表 2 監査要点及び監査手続（一部）

項番	監査要点	監査手続
1	要件定義の内容と基本設計の内容が整合していること	要件対照表を閲覧して、要件 ID 及び対応する設計 ID が記載されていることを確認する。
2	基本設計検討会での検討結果に基づき、機能が設計されていること	基本設計書及び b を閲覧して、基本設計書の“機能設計”の内容が、基本設計検討会での検討結果と整合していることを確認する。
3	情報系システム及び基幹系システムのセキュリティ対策が適切に設計されていること	基本設計書及び c を閲覧して、基本設計書の“セキュリティ設計”の内容が、セキュリティ要件を充足していることを確認する。

〔内部監査部長の指示〕

内部監査部長は、システム監査チームが検討した監査スケジュール、監査要点及び監査手続をレビューし、次のとおり指示した。

- (1) 表 2 項番 1 の監査手続だけでは、監査要点を確かめるための十分な監査証拠を入手できないので、追加の監査手続を検討すること。

なお、要件対照表には多数の要件 ID 及び設計 ID が記載されているが、監査要員、監査時間などには制約があるので、効率的な監査手続とすること。

- (2) 〔基本設計段階の予備調査で把握した事項〕の(3)を考慮すると、表 2 項番 2 の監査手続では、監査要点を確かめるための十分な監査証拠を入手できない可能性がある。その場合に備えて、追加の監査手続を検討すること。

- (3) 〔要件定義段階の監査で把握した事項〕の(4)を考慮して、本プロジェクトの未確定要件に関して、表 2 項番 1～3 の監査手続以外に、追加の監査手続を検討すること。

システム監査チームは、内部監査部長の指示を受けて、表 3 のとおり追加の監査
 手続を策定して、内部監査部長の承認を得た。

表 3 追加の監査手続

項番	内部監査部長 の指示	追加の監査手続
1	(1)	① 要件対照表に記載されている全ての要件 ID を <input type="text" value="d"/> とし て、要件 ID をサンプリングする。 ② ①でサンプリングした要件 ID についての要件定義書の内容と、対 応する設計 ID についての <input type="text" value="e"/> が整合していることを確認す る。
2	(2)	<input type="text" value="f"/> を閲覧して、機能設計のタスクにおいて、基本設計書の “機能設計” の内容を記載する時期を確認する。
3	(3)	課題管理表を閲覧して、 <input type="text" value="g"/> を確認する。

設問 1 [システム監査チームの検討] に記述中の に入れる最も適切な字
 句を解答群の中から選び、記号で答えよ。

解答群

ア 9月9日 イ 9月30日 ウ 10月31日 エ 11月1日

設問 2 表 2 項番 2 に記述中の に入れる適切な字句を、15 字以内で答えよ。

設問 3 表 2 項番 3 に記述中の に入れる適切な字句を、15 字以内で答えよ。

設問 4 表 3 項番 1 について、(1), (2)に答えよ。

(1) に入れる適切な字句を、5 字以内で答えよ。

(2) に入れる適切な字句を、10 字以内で答えよ。

設問 5 表 3 項番 2 に記述中の に入れる適切な字句を、10 字以内で答えよ。

設問 6 表 3 項番 3 に記述中の に入れる適切な字句を、20 字以内で答えよ。

問 11 販売物流システムの監査に関する次の記述を読んで、設問 1～4 に答えよ。

食品製造販売会社である U 社は、全国に 10 か所の製品出荷用の倉庫があり、複数の物流会社に倉庫業務を委託している。U 社では、健康食品などの個人顧客向けの通信販売が拡大していることから、倉庫業務におけるデータの信頼性の確保が求められている。

そこで、U 社の内部監査室では、主として販売物流システムに係るコントロールの運用状況についてシステム監査を実施することにした。

〔予備調査の概要〕

U 社の販売物流システムについて、予備調査で入手した情報は次のとおりである。

(1) 販売物流システムの概要

- ① 販売物流システムは、顧客からの受注情報の管理、倉庫への出荷指図、売上・請求管理、在庫管理、及び顧客属性などの顧客情報管理の機能を有している。
- ② 物流会社は、会社ごとに独自の倉庫システム（以下、外部倉庫システムという）を導入し、倉庫業務を行っている。外部倉庫システムは、物流会社や倉庫の規模などによって、システムや通信の品質・性能・機能などに大きな違いがある。したがって、販売物流システムと外部倉庫システムとの送受信の頻度などは必要最小限としている。
- ③ 販売物流システムのバッチ処理は、ジョブ運用管理システムで自動実行され、実行結果はログとして保存される。
- ④ 販売物流システムでは、責任者の承認を受けた ID 申請書に基づいて登録された利用者 ID ごとに入力・照会などのアクセス権が付与されている。また、利用者 ID のパスワードは、セキュリティ規程に準拠して設定されている。
- ⑤ 倉庫残高データは、日次の出荷作業後に外部倉庫システムから販売物流システムに送信されている。倉庫残高データは、倉庫ごとの当日作業終了後の品目別の在庫残高数量を表したものである。当初はこの倉庫残高データを利用して受注データの出荷可否の判定を行っていた。しかし、2 年前から販売物流システムの在庫データに基づいて出荷判定が可能となったので、現状の倉庫残高デー

タは製品の実地棚卸などで利用されているだけである。

(2) 販売物流システムの処理プロセスの概要

販売物流システムの処理プロセスの概要は、図1のとおりである。

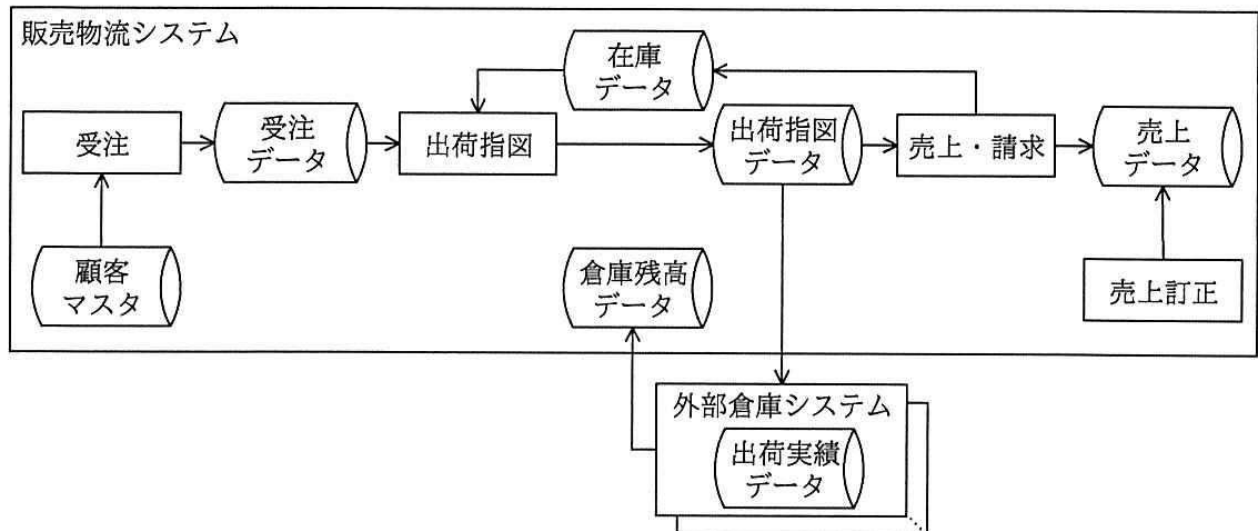


図1 販売物流システムの処理プロセスの概要

- ① 顧客からの受注データは、自動で在庫データと照合される。その結果、出荷可能と判定されると受注分の在庫データが引当てされ、出荷指図データが生成される。出荷指図データには、出荷・納品に必要な顧客名、住所、納品情報などが含まれている。
- ② 出荷指図データは、販売物流システムから外部倉庫システムに送信される。送信処理が完了した販売物流システムの出荷指図データには、送信完了フラグが設定される。
- ③ データの送受信を必要最小限とするために販売物流システムは出荷実績データを受信せず、出荷指図データに基づいて、日次バッチ処理で売上データの生成及び在庫データの更新を行っている。
- ④ 出荷間違い、単価変更などの売上の訂正・追加・削除は、売上訂正処理として行われる。この売上訂正処理では、売上データを生成するための元データがなくても入力が可能である。現状では、売上訂正処理権限は、営業担当者に付与されている。

〔監査手続の検討〕

システム監査担当者は、予備調査に基づき、表 1 のとおり監査手続を策定した。

表 1 監査手続

項番	監査要点	監査手続
1	利用者 ID に設定されている権限とパスワードが適切に管理されているか。	① 利用者 ID に設定されている権限が申請どおりであるか確かめる。 ② 利用者 ID のパスワード設定がセキュリティ規程と一致しているか確かめる。
2	顧客情報が適切に保護されているか。	① 販売物流システムの顧客情報の参照・コピーなどについて、利用者及び利用権限が適切に制限されているか確かめる。
3	出荷指図に基づき倉庫で適切に出荷されているか。	① 1 か月分の出荷指図データと売上データが一致しているか確かめる。
4	倉庫の出荷作業結果に基づき売上データが適切に生成されているか。	① 売上データ生成の日次バッチ処理がジョブ運用管理システムに正確に登録され、適切に実行されているか確かめる。

内部監査室長は、表 1 をレビューし、次のとおりシステム監査担当者に指摘した。

- (1) 項番 1 の①について、権限の妥当性についても確かめるべきである。特に売上訂正処理は、日次バッチ処理による売上データ生成とは異なり、a がなくても可能なので、不正のリスクが高い。このリスクに対して①現状の運用では対応できない可能性があるので、運用の妥当性について本調査で確認する必要がある。
- (2) 項番 2 の監査要点を確かめるためには、販売物流システムだけを監査対象とすることでは不十分である。b についても監査対象とすることを検討すべきである。
- (3) 項番 3 の①の監査手続では、出荷指図データどおりに出荷されていることを確かめることにならない。また、この監査手続は、倉庫の出荷作業手続が適切でなくともc とd が一致する場合があるので、コントロールの運用状況を評価する追加の監査手続を策定すべきである。
- (4) 項番 4 の①の監査手続はe とf が一致していることを前提とした監査手続となっている。したがって、項番 4 の監査要点を確かめるためには、項番 4 の①の監査手続に加えて、販売物流システム内のデータのうち、

と を照合するコントロールが整備され、有効に運用されているか、本調査で確認すべきである。

設問1 「監査手続の検討」の , に入れる適切な字句をそれぞれ10字以内で答えよ。

設問2 「監査手続の検討」の(1)において、内部監査室長が下線①と指摘した理由を25字以内で述べよ。

設問3 「監査手続の検討」の , に入れる適切な字句をそれぞれ10字以内で答えよ。

設問4 「監査手続の検討」の ～ に入れる最も適切な字句を解答群の中から選び、記号で答えよ。

解答群

ア ID 申請書

イ 売上訂正処理

ウ 売上データ

エ 在庫データ

オ 受注データ

カ 出荷指図データ

キ 出荷実績データ

ク 倉庫残高データ

ケ 利用者 ID の権限